

2015. 2【vol.53】

# 水レター「びわ湖・よど川」

独立行政法人水資源機構 関西支社 発行

水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における情報のほか、琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を、水レター「びわ湖・よど川」により、関係機関の皆様にお知らせします。

index

- |                           |    |
|---------------------------|----|
| 1. 関西支社管内の気象と水源状況         | 1p |
| 2. 関西支社管内の取り組み状況          | 4p |
| 3. 水に関する一口メモ <sup>⑭</sup> | 5p |
| 4. 水源地マラソン紀行（その28）        | 7p |

編集後記



水がささえる豊かな社会



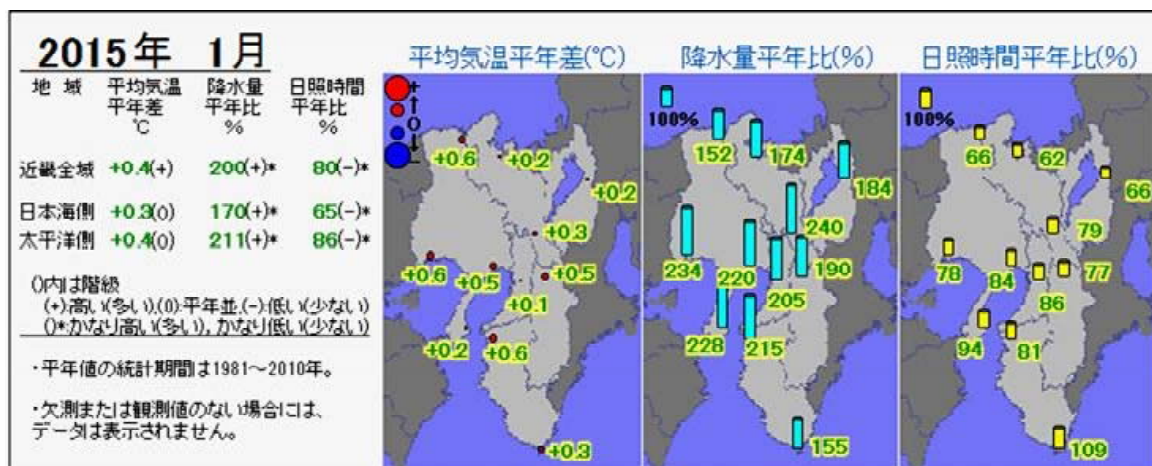
独立行政法人 水資源機構

# 1. 関西支社管内の気象と水源状況

## (1) 近畿地方の天候（2015年1月）（大阪管区气象台HPより抜粋）

日本海側では、冬型の気圧配置や低気圧の影響で曇りや雪または雨の日が多くなり、上旬から中旬にかけては大雪となった所がありました。太平洋側では、晴れた日もありましたが、曇りや雨または雪の日が多くなり、上旬は大雪となった所がありました。また、中旬から下旬にかけて、西日本付近を通過した低気圧の影響で大雨となった所がありました。曇りや雪または雨の日が多かったことから、日本海側の降水量は1946年の統計開始以来、多い方からの1位、日照時間は同じく少ない方からの3位となりました。

	上旬		中旬		下旬	
	気温	降水量	気温	降水量	気温	降水量
日本海側	平年並	かなり多	低	かなり多	かなり高	多い
太平洋側	平年並	かなり多	低	平年並	高	かなり多

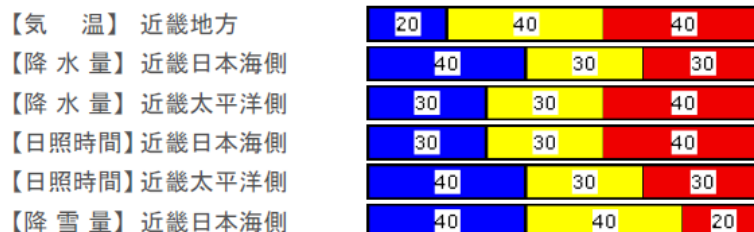


## (2) 近畿地方の天候の見とおし（大阪管区气象台HPより抜粋）

### 1ヶ月予報（2月14日から3月13日まで）

日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

### 3ヶ月予報（2月から4月まで）

- 2月 日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- 3月 日本海側では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。
- 4月 天気は数日の周期で変わるとでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

### (3) 関西支社管内の水源状況（2015年1月）

水資源機構の関西支社管内における各ダム流域における水源状況はつぎのとおりです。

降水量は、いずれのダムにおいても平年よりかなり多く、平年比165%～253%でした。

貯水率は、いずれのダムにおいても平年値を上回り、非洪水期における最高貯留水位である平常時最高水位をほぼ確保している状況となっております。

特に、一庫ダムにおいては、降雨が通常の2.5倍を記録しており、貯水率が平年より40%程度近く上回っております。

施設名	所在地	ダム地点降水量(1月)		ダム貯水率(1月末日)	
		(mm)	(平年比%)	(%)	(平年値%)
高山ダム	京都府山城南部	108	212	89.9	74.8
青蓮寺ダム	三重県伊賀	94	184	97.6	81.2
室生ダム	奈良県北東部	118	236	96.4	78.1
布目ダム	奈良県北西部	113	222	84.5	76.6
比奈知ダム	三重県伊賀	101	202	97.7	89.2
一庫ダム	大阪府北大阪	101	253	96.6	50.2
日吉ダム	京都府南丹・京丹波	97	202	94.3	91.3
琵琶湖	滋賀県全域	196	165	0.09	-0.24

※ ダム貯水率の琵琶湖の箇所についてはB.S.Lです。

### (4) 関西支社管内の水源状況の見とおし

気象庁の予測では、日本海側は雨が多く、太平洋側は晴れの日が多くなるとの見とおしとなっております。

各ダム流域においても、平年並みかそれ以上の降雨が見込まれると仮定すると、ダム上流の河川流量が減少することは考えにくく、下流に必要な農業用水、都市用水等を確保した上で、ダムの貯水率を維持することができるものと思われまます。

なお、琵琶湖については、これまでと同様、最低必要放流量15m<sup>3</sup>/sを確保した上で、淀川下流に必要な用水等を継続できるものと思われまます。

### (5) 関西支社管内の水源情報について

水資源機構の関西支社管内における各ダムの貯水状況、補給状況は、関西支社ホームページの水源情報に掲載しております。

水資源機構関西支社HP

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/html/suigen/suigen.html>

(関西支社 施設管理課)



## 2. 関西支社管内の取り組み状況

関西支社管内における取り組み状況をお知らせします。

11月～12月：「琵琶湖開発事業と文化財展」開催

11月12日(水)～12月8日(月)：川の駅「はちけんや」(大阪市)

12月10日(水)～12月28日(日)：「淀川資料館」(枚方市)

12月11日(木)：ダム定期検査公開(布目ダム)

12月16日(火)：平成26年度環境学習会(支社・琵琶湖総管合同)

12月19日(金)：川上ダム事業実施計画変更に係る意見聴取・費用負担同意  
文書発出(伊賀市、1月14日(水)同意文書受理)

12月19日(金)：ミャンマー農業灌漑省副大臣視察(比奈知ダム)

12月19日(金)：青蓮寺ダム他総合点検(学識経験者現地説明)

12月20日(土)～21日(日)：水上展覧会(天若湖アートプロジェクト、日吉ダム)

12月25日(木)：一庫ダム総合点検(機構専門家現地説明)

1月15日(木)：川上ダム事業実施計画変更に係る関係府県協議文書発出  
(三重県、京都府、大阪府、奈良県)

1月21日(水)：京都府亀岡警察署視察(防災研修：日吉ダム)

1月23日(金)：伊丹市上下水道視察(水道技術管理者研修：日吉ダム)

1月27日(火)：水環境創造機構 講演会(支社長講演「水資源の確保と管理」)

2月7日(土)：猪名川クリーン作戦(一庫ダム)

2月15日(日)：月ヶ瀬梅溪早春マラソン大会(木津総管)

2月16日(月)：ダムフォローアップ本委員会(室生ダム、一庫ダム対象)

2月16日(月)～20日(金)：会計実地検査(琵琶湖総管)

2月21日(土)：大阪広域水道企業団・市町村親睦駅伝大会(長居競技場)

2月22日(日)：桂川流域クリーン大作戦(日吉ダム)

2月22日(日)：青蓮寺湖駅伝競争大会(木津総管)

### 3. 水に関する一口メモ ⑭

今回の水に関する一口メモは、福井市に建立された永平寺正門の石柱に刻まれた言葉についてご紹介します。

琵琶湖淀川の水源地、高時川上流の余呉町菅並に中世に建立されたという曹洞宗の道場としての立派なお寺「塩谷山洞寿院」があります。

今回は、「道元」に因み、水に関わる道元禅師のお言葉を紹介させていただきます。

「杓底一残水 汲流千億人」は、水資源機構の職員はもちろんとして水に関わるお仕事をされている関係機関の皆様にも是非覚えていただきたい言葉だと思います。

#### [I] 「杓底一残水 汲流千億人」

福井市の曹洞宗大本山永平寺の正門の左右に一对の石柱が建てられていて、右の石柱には「杓底一残水」、左の石柱には「汲流千億人」と、熊沢泰禅禅師（1873～1968）の書が刻まれてあります。

道元禅師（1200～1253）は永平寺に住されたとき、毎朝門前を流れる谷川の水を汲んで仏前に備えられましたが、柄杓の底に残った僅かな水でも捨てずに下流の人々のためにつつましやかに谷川にもどされた、といいます。その徳を偲んでの言葉が、左右の石柱に刻まれています。物を大切にし、人の目につかない所で、人として作すべき行いをするのを「陰徳を積む」といいます。

「杓底一残水」 しゃくてい の いちざんすい  
「汲流千億人」 ながれをくむ せんのかのひと

「きょうの杖言葉一日一言」松原泰道・海竜社より

<参考> <http://photohito.com/photo/1241568/>

#### [II] 水にありがとうー21世紀の今よみがえる道元禅師の思いー

「杓底一残水 汲流千億人」 杓底の一残水 流れを汲む 千億の人

これは、永平寺の御開山道元禅師（1200～1253）の日常の心構えの真髓を、後の七十三世熊沢禅師（1873～1968）が的確に偈（げ、詩）に詠まれたものです。道元禅師は、洗面などの際に水を谷川からくみ、柄杓の底に残った水を「仏の御いのち」と思われ、大切に川に戻され、柄杓に残った水さえも粗末にされませんでした。大切に戻されたわずかな水によって、また誰かがその恵みを得られるからです。また、道元禅師が書かれた『典座教訓』という書物にも、「古（いにしえ）に言う、米を淘（よなぐ）る水はこれ身命なりと知る（米をとぐとき水を自分自身の命そのものだと思ひみなす）」と記されており、水を大切に作る心が今も教えられています。

丹生ダム広報誌「たかとき川」2008・Vol 44 より

丹生ダムHP : [http://www.zc.ztv.ne.jp/niu-dam01/takatoki/koho\\_takatoki.html](http://www.zc.ztv.ne.jp/niu-dam01/takatoki/koho_takatoki.html)

### [Ⅲ] 「おのれなりけり軒の玉水」

「聞くままに また心なき みにしあれば おのれなりけり 軒の玉水」

道元禪師「傘松道詠」永平寺版

軒から滴り落ちる玉水（雨だれ）を聞くままに（聞こうとも聞くまいとも思わずにただ聞いていると）また心なき（身）（一切のとらわれを去った身）であるから、雨だれの音が外ならぬおのれなりけり（自分である）と。

雨だれの音とそれを聞く自分とが、雨だれの音一つに統一された三昧（一つのことに心を集中して他に心を散らさない）の状態を詠んだ一首です。こうした心のありさまが仏教語の「観察」です。仏教思想では相手の事物に成りきるのが観察で、「軒の玉水」は客観現象のすべての象徴です。

「きょうの杖言葉一日一言」松原泰道・海竜社より

（関西支社 上席審議役 原 稔明）

 <p>Japan Water Agency 独立行政法人 水資源機構</p>	<p>水資源機構ツイッター <a href="http://twitter.com/jwa_PR">http://twitter.com/jwa_PR</a> 水資源機構関西支社 <a href="http://www.water.go.jp/kansai/kansai">http://www.water.go.jp/kansai/kansai</a></p>
--	---

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望・ご意見等がございましたら、  
下記アドレスまでご連絡ください。（皆様からの耳寄りな情報もお待ちしております。）  
mailto: w-kansai@msg.biglobe.ne.jp

## 4. 水源地マラソン紀行(その28)

寒い毎が続きます。最近は週末の午前中に練習をしておりますが、1時間も走ると縮むような感じですが、それでも暑いよりはましです。遅れましたが今回は昨年12月7日(日)に行われた布目ダムマラソンの模様をお伝えします。

この大会については、何度か水レターでも紹介したことがありますが、歴史は古く、布目ダムの完成を記念して始まったもので、今回で24回を迎える大会です。地元奈良県山添村から小中学、高校生の参加もあり、年齢層も幅広い大会で、今回は10kmマラソンに出場しました。

コースは布目ダムの上流の副ダム周辺の3kmのコースを1周する3km走と5周する15km駅伝の種目に加えて、今回は、ダムの上流からスタートし、ダム堰堤で折り返す10km走が新たに加わりました。(従来マラソンは、駅伝と同じ15km)

今回で4回目の出場となる大会ですが、上流の周回コースを5周するという精神的にきつい大会でしたが、距離も短くなり、ダム堰堤を走り抜け、管理所を折り返す新たなコースに気分一新です。

今回の大会には、駅伝の部に木津川ダム総合管理所より1チーム、10kmの部に同管理所から3名、関西支社から2名が出場したほか、堰堤周辺を走ることもあり、多くの水機構職員が交通整理員や大会要員として参加しています。

いよいよスタートです。大会の当日は大変な好天に恵まれ、スタート時点11時の奈良の気温は6.9℃と絶好のマラソン日和です。10kmの部は出場者数211人と大阪周辺で開催される〇千人出場、号砲が鳴ってからスタートラインを通過するまで数分かかるなどの満員電車並の混み合った大会とは違い、終始混み合うことなく、自分のペースで走れます。混み合っていないと早く走りたいのが人の常です。やはり最初に飛ばしすぎたせいでしょうか、折り返しのダム管理所を過ぎたあたりから息が上がります。最後3kmあたりから何人かに抜かれ、最後1kmで布目ダムのA松さんに抜かれますが、何とか粘ってゴールです。ゴールタイムは前半の貯金もあり、ベストに近いタイムでゴールできましたが、何より眺望の良いダムを走ることができたことが幸いです。皆さんも是非参加してみてください。

また、木津総の多くの職員のボランティアの参加もあり、運営や応援いただきましたことにとっても感謝しています。

(ダムを走る男)

スタートこのあたり



10kmの部に出場した雄志



10kmの部スタート



## 編集後記

2月も後半に入り、少しずつ日が長くなり、春が近づくのを感じる今日この頃ですが、とは言ってもまだまだ寒い日々が続いていますね。

ところで、日本の郵便ポストの色といえば「赤」ですが、『青』いポストがあるのを知っていますか。

速達専用のポストが「青」で、いまでも街角で投函できます。

初めて登場したのは1956年、高度経済成長期にビジネス需要を中心に速達の利用が拡大し、オフィス街に次々と立てられたようです。

ピーク時には、全国で約400本ありましたが、年々、新型のポストに変わっていき、今では35本しか残ってないそうです。(ちなみに、ポストの数え方は“本”だそうです。)

そして、その35本のうち20本以上が、大阪に集中していることを知り、ビックリ。関西支社近くにもあったので、写真を撮ってきました。たしかに、ポスト前面に「速達郵便」と書かれています。それにしても、何ともレトロでおしゃれな色合い、スリムな形で、ちょっとうらやましいです…(^\_^;)

なぜ大阪にだけ多く残っているのかは定かではありませんが、『再開発されていないオフィス街が比較的多いからでは』との見方もあるようです。老朽化や街並みの整備などにより、今後減っていく一方だと思いますが、赤いポストと共に仲良く、現役ポストとしてまだまだ活躍してほしいなと願うばかりです。

赤・青ときたら黄色かなと、黄色のポストもご紹介します。

黄色のポストも日本各地にあるそうですが、私が知っているのは、こちらの写真。鹿児島県指宿市にある、JR日本最南端の駅、西大山駅の前にあるポスト。「幸せの黄色いポスト」と呼ばれ、そこからは薩摩富士と呼ばれる開聞岳を望むことができ、指宿の観光スポットとなっています。この他にも違った色のポストがあるんでしょうか？知っている方がいましたら、情報をお待ちしております。(秋の七草・すすき)

